

<主と共に歩む道>

詩篇30：4～12

敬老の日の発祥は兵庫県

聖書に出てくる後輝高齢者の活躍

モーセ・・・80歳

神の召しを受けて、再びエジプトに帰り出エジプトのリーダーとなった。

カレブ・・・85歳

約束の地に入り、なお取るべき地は残されていると、誰も尻込みして出向こうとしなかったヘブロンへ向かう勇者ぶり。若き日も、老いた今も変わらない一筋通った神の人としての姿を見ることが出来る。その在り方を形づくっていたのは、どんな時にも「主に従い通した」という所。

(ヨシュア記14章)

アブラハム・・・75歳

「あなたはあなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て私が示す地へ行きなさい。」

この言葉に従ってアブラハムは、住み慣れていた故郷を離れて新しい地に向かって出発。

信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しをうけたとき、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました。ヘブル11：8

老年になっても神と共にある人生は冒険に満ちている！

甥のロトとの別れ／約束の子イサク得るまでの年月／大きな試練／晩年になって

<アブラハムの最期>

以上は、アブラハムの一生の年で、百七十五年であった。アブラハムは平安な老年を迎え、長寿を全うして息絶えて死に、自分の民に加えられた。彼の子らイサクとイシュマエルは、彼をマクペラのほら穴に葬った。創世記25：7～9

「自分は生きているというより、生かされているのだ」と、

どんなきっかけで気づくのか？

◆ 神に生かされているのを実感したなら、私たちはどう生きるべきなのか？

1、生かされていることをいつも する

「日々の感謝が全てを癒す」

幸福感の高い人、そうでない人と比べての研究結果

幸せには心理的な要因として4つの因子がある。

①やってみよう因子 ②ありがとう因子 ③なんとかなる因子 ④あなたらしく因子

2、 である

謙遜と、主を恐れることの報いは、富と誉れといのちである。箴言22：4

イスラエルの全盛期に王となったソロモンが、自分の足らなさを自覚し神に求めたのは「主が与えてくださる知恵」

わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。マタイ11：29

3、どんなときもイエス様に いる

自分のたどってきた道のりを振り返ると・・・

叫びと、感謝は、同時進行な所があり、「恩寵のうちに」私の生涯は守られていたと告白できるのではないのでしょうか。